

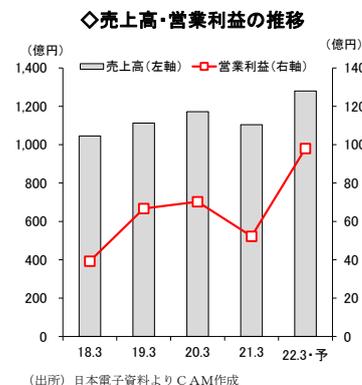
企業ニュース 日本電子

(東証1部 : 6951) <https://www.jeol.co.jp>

作成者: 村上大志

総合理科学機器メーカー

1949年に設立された総合理科学機器メーカー。電子顕微鏡の開発・製造から始まり、現在では基礎研究から最先端材料の開発に至るまでナノテクノロジーの研究に必要な様々な機器の開発・製造を手掛けており、理科学・計測機器、産業機器、医用機器の3事業を展開する。理科学・計測機器では、電子顕微鏡のほか、物質の構造を内部から分析する核磁気共鳴装置などの開発・製造を行っている。業績のけん引役となっている産業機器では、半導体の製造工程の1つであるフォトリソに回路パターンを描く際に使用される電子ビーム描画装置を手掛ける。医用機器では、血液や尿などに含まれる各種成分を測定する生化学自動分析装置などを手掛けている。21.3期のセグメント別構成比(売上高・営業利益)は理科学・計測機器(64%・13%)、産業機器(22%・77%)、医用機器(14%・10%)。



受注・受注残ともに過去最高を大幅に更新

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の業績は売上高が534億円、前年同期比8%増、営業利益が37億円、同49%増。上期実績としてはいずれも過去最高を更新した。セグメント別では、産業機器が電子ビーム描画装置の売上拡大により大幅な増収増益となり、業績をけん引。理科学・計測機器は、中国での関税手続きの遅れによる売上計上の後ずれにより減収となり、赤字幅が拡大した。医用機器は、中国向けで売上が拡大し増収増益となった。

22.3期の会社計画は売上高が1,280億円、前期比16%増、営業利益が98億円、同88%増。為替見通し(105円から110円)の変更を主因に、売上高で15億円、営業利益で15億円の上方修正を行った。部材のひっ迫や納期の長期化による売上計上の期ずれなどリスク要因はあるが、上期の受注・受注残はともに過去最高となっており、事業は好調に推移している。特に産業機器では、EV(電気自動車)の普及や半導体の微細化技術の進展により、シングルビーム、マルチビームともに需要は拡大している。10月より新工場が稼働を開始したことで、電子ビーム描画装置の最大生産能力が3倍に増強されており、旺盛な需要の取り込みが期待される。

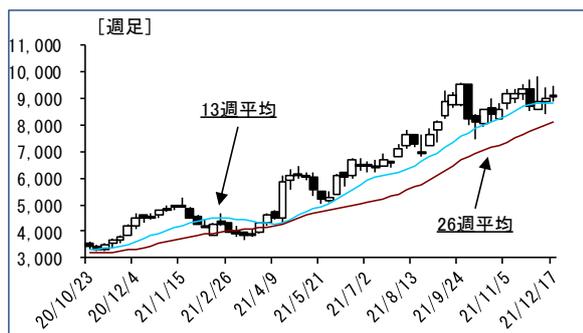
[株価動向・投資判断]

半導体市場は活況が続いており、電子ビーム描画装置を中心に業績の拡大が期待できよう。

<6951 日電子 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	117,243 (5)	7,030 (5)	7,203 (▲ 3)	5,359 (▲ 10)	110.9	24.00
21.3	110,439 (▲ 6)	5,224 (▲ 26)	6,550 (▲ 9)	3,745 (▲ 30)	77.5	24.00
22.3 予	128,000 (16)	9,800 (88)	10,600 (62)	7,400 (98)	148.7	28.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/12/17)	9,060 円
年初来高値(高値日)	9,840 円 (21/11/30)
同 安値(安値日)	3,695 円 (21/3/9)
予想 P E R (22.3 予)	60.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,517.4 円
P B R	5.97 倍
予想配当利回り	0.31 %
(1株当たり配当金年28.00円)	
R O E (21.3)	7.8 %
発行済み株式数	5,153 万株